

日米財界人セミナーでのあいさつ

(一九八三年十一月十日　迎賓館)

ここに日米両国の指導者の皆さまにお会いする機会を得て、うれしく思います。

今日の集いは、アメリカ人と日本人が繁栄のために依存し合っている姿を示しております。日米両国は數千キロの海で隔てられ、言語や文化を異にしていますが、食糧からコンピュータまで、あらゆる品目にわたる活発な貿易に、私たちは力を合わせて豊かさをつくり出す方法を見つけたのです。

カリフォルニア州知事として私が迎えた最初の年である一九六七年に、両国間の貿易総額は五十七億ドルでした。すでにあの当時、私を含めアメリカの州知事たちが、いかに日本との貿易を重視していたかを、私は思い出します。知事生活最後の年である一九七四年には、その数字は二百三十億ドルに伸びました。今年、日本はアメリカの総輸出の十分の一という、海外のどの国よりも大きな比率を占めるものと予想されています。また、アメリカは日本の総輸出の四分の一を買い、両国間の貿易総額は六百億ドルを超すものと予想されています。また、両国の活発な貿易は、お互いに相手から学ぶ機会を私たちに与えており、両国が今日、技術革命の先頭に立っているのも、この貿易に負うところが多くあります。この技術革命は、一世紀前の産業革命以上に根本的に生活を変える可能性を秘めています。

私たちはみな、日米の企業が健全で、かつ拡大を続けるよう望んでいます。このことは、単なる貿易ではなく、自由な貿易を促進し続けなければならないことを意味します。

ご来席の日本の皆さまに、賛辞を申し述べたいと思います。多くの皆さまは、過去三十五年にわたり、

日本に経済の奇跡をもたらす上で大きな役割を果たしてこられました。皆さまの想像力と活力と決意は、日本を世界で最も繁栄している国の一につく育て、太平洋地域全体の経済成長を培つてきました。

いまや世界経済の巨人になつた日本は、世界の経済を強力に維持する責任を共有しています。近年、日本は、外国の財とサービスに対して市場を開放し始めました。中曾根総理は、この積極的な措置を続けてこられました。私たちは、皆さまのご努力に感謝しています。

アメリカは、日本との間に貿易問題を抱えており、ともにこの問題を解決できるよう、日本政府の協力を求めていきます。私たちは、太平洋の両側で貿易障壁を低くするよう努力しなければなりません。また、アメリカは、日本の資本市場が外国の参入に対してもっと開放されるよう希望します。そうなれば、円の国際的な役割をもつと大きくし、両国間の通貨の不均衡を改善するのに役立つでしょう。日本の財界指導者としての皆さまは、自由貿易を拡大して国際経済を強化するという動きの先頭に日本が立つことに貢献できるのです。両国の繁栄は、皆さまのご努力に、大きくかかっておりまます。

日本の財界筋において、東京の日米協会や、両国の文化交流と親善を促進することを目的とした他の諸団体を入れる恒久的な施設を設立しようと尽力なさっていると私は伺っています。そのご努力が実を結ぶよう望んでやみません。

ご来席のアメリカ人の皆さまに、ひとこと、「変わらぬ」「活躍を」と申し上げたいと思います。皆さまは先駆者であり、日本でのビジネスは大変ではあるけれども、それが努力に値することを示しておられます。日本は、アメリカの財とサービスにとって、ますます実り多い市場になっています。皆さまの立派なお手本は他のアメリカ企業にとっての励みとなり、その企業が皆さまに続いて日本に進出し、さらに一層日米貿易を増進させるでしょう。

皆さまに喜んでいただけそうな話だと思いますが、来年一月に、商務省は、ハイ・レベルのアメリカ財界

人から成る特別貿易使節団を日本へ派遣いたします。この使節団は、貿易開発担当商務次官補リチャード・マッケルヘニーと、ホワイトハウスでの私の顧問代理ジム・ジエンキンズが率いることになります。

日本でビジネスを行なつてゐるアメリカ人の皆さまには、現政権が皆さまを全面的に支持していることを知つていただきたいと思います。この国での皆さまの活動が引き続き発展するよう、ワシントンにおいて私たちは、日本での皆さまと同じように頑張つています。筑波万博は、アメリカが最先端テクノロジーを紹介する絶好の機会となるでしょう。皆さまの会社の多くも、この万博に参加し、アメリカ館の政府代表であるジム・ニーダムに協力して下さるよう望みます。

今夕、皆さまに私がお伝えしたいメッセージは簡単なものです。それは歴史が繰り返し教えてくれた教訓、すなわち保護主義はみんなの害になるが、自由貿易はみんなのためになる、ということです。

日本のしきたりでは、ビジネスマンが、ただ口約束や握手をするだけで、契約が最終的なものになると伺っています。そのような取引には、もちろん深い相互の信頼と尊敬が必要です。私たち両国とも、一朝一夕には自国の市場を完全に開放できません。しかし、一歩一歩、しかも遅れることなく努力を重ねていけば、私たちはそのような相互の信頼と尊敬を培うことができるのです。